

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里		
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰甲697-5 (電話) 0982-58-1323		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年12月18日	評価確定日	平成21年1月29日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都農町に近接した旧東郷町で山間地区にあり近接する民家がなく道路沿いではあるが、交通量も少なくけん騒からほど遠い所に位置する。指定直後に日向市に合併となり都農町民の希望があるが日向市との協議が整わず、2ユニット程の利用者がいない現状のため1ユニット体制が取られている。外部評価直前に管理者の交代があり、職員も2ユニットを目途に主任2人体制としての役割が示されている。開設者の地元であり地域住民の支えを受けて、利用者は穏やかな生活を送られている。

## 【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年2月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算7.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	13名	男性 3名	女性 10名
要介護1	3	要介護2	3
要介護3	3	要介護4	3
要介護5	0	要支援2	1
年齢	平均 84歳	最低 66歳	最高 102歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏林会三股病院
---------	-------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスの理念をわかりやすい表現に変更されている。終末期ケアに対する文書を作成し、漸次利用者、家族、主治医を含めて話し合うよう検討されている。食事や水分摂取量の記録は改善されているが、栄養士による献立指導には至っていない。消防署の年1回の防災訓練は実施されているが、自主避難訓練や災害時の地域住民への協力依頼はなされていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価記入者やその他の職員も離職されているが、昨年の課題となった事項の改善には努力されている。しかし、全員で自己評価を作成したり、その過程で課題を見いだすところまで到達しない部分がある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今年度は、1回しか開催されておらず、ホームの行事計画や利用者の状況報告が主内容であった。その中で、民生委員を中心に、地域との交流を図る種々の意見が出され、地域の行事に参加する機会やホーム行事への参加者が増えることとなった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族から直接受けた意見や苦情には、全職員で共通理解を得られる対応を速やかに行い、改善や再発防止に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設から2年を迎え、グループホームが地区住民に理解されるようになり、地域で行われる行事やホームの催事への相互の参加を中心とした交流が活発になった。

## 1. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価で課題となった事項は検討され、地域密着型サービスの実現を踏まえ、新たな理念を構築している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員だけでなく、利用者や家族も理解しやすい表現とし、共用のホールに掲示されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長自身は、長年地域住民としての信頼も厚く、開設2年目となったホームも理解されており、地域のグラウンドゴルフ大会への参加や、ホームの納涼祭、敬老会、クリスマス会への招待など、双方向の交流が図られている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム開設からの2年間には職員の異動もあり、評価の意義は理解されているが、到達度に個人差があり自己評価を全員で作成できない部分がありミーティング等で取り上げているところである。昨年の外部評価の課題事項を改善したり、更に継続すべきことに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに運営推進会議は1回しか開催されていない。行政代表の委員が介護保険担当外であるなかで、地域との連携の必要性が検討され、各々の委員の具体的な働きかけで、地域とホームの交流が活発になってきた。今後の推進会議の定期的な開催や内容について検討されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設直後に市町村への権限委譲や、年度当初の日向市との合併により、相互に担当者との連絡調整に課題を残したまま経緯していることや、直近の管理者の交代による相談や情報交換など連携の必要性の意識を持たれている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時を利用して、健康状態や預かり金の金銭管理状況は報告されている。しかし、来訪の頻度は個人差があり、家族が他にも求める知りたい情報を把握し、対処するまでには至っていない。	○	地域との交流会や季節に応じた外出行事などの時の（みかん狩り、干し柿づくり、わらび取りなど）家族が来訪時には見られない利用者の状況や、職員の異動状況などを、若手職員手作りのホーム便り等を一案として、家族への報告に努めていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・苦情箱を設け、相談担当者を重要事項説明書に明記している。直接苦情を言われたこと（利用者の呼び方等）もあり、速やかに職員全員で検討し、苦情対応に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の健康やストレス解消等の離職予防の必要性は認識されており、利用者へのサービス低下にならないよう職員同士でカバーしている。職員確保には、正社員としての採用条件にもかかわらず、市街地から遠い立地条件に苦慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講のための勤務の仕組みがあり、職員は指定や希望研修に参加している。最近、月1回勉強会を開催し、職場内研修をスタートさせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日向市及び県北グループホーム協議会に参加して、同業者から学習することが多くあり、徐々にホームの計画や運営に反映させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いつでもホームの見学を受け入れ、特に入居予定者には見学して納得してもらうように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園の野菜づくりやしいたけ栽培、干し柿づくり、芋ぼた餅など、利用者の得意なことを学び、一緒に過ごす関係づくりをされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居後も、本人や家族から希望を聞いて、希望に沿える毎日が送れるように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には、家族からの希望や、利用者を担当している職員からの意見を取り入れ、ケアカンファレンスが行なわれている。	○	多職種、介護歴の異なる職員が、共通ツール（例えばセンター方式など）で学習し、介護計画作成の更なるレベルアップを図っていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直しがおこなわれ、必要者には随時新たな計画が作成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は、家族が受診に同行できない時に職員が同行している。多機能性を生かしたその他の支援までは至っていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の内科医師が月1回訪問診療され、本人や家族の了解による主治医でもある。内科以外の診療科や歯科治療は外部受診がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新たな利用者には当初から、現在の利用者にはなるべく早い時期に、本人や家族と話し合うよう努めている。書面による意思確認のための様式を作成している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	以前△△ちゃんとの呼称に対し、家族からの苦情があり、その後は本人のなじみの呼称を家族から確認し、プライバシーや尊厳を損なわないように気配りされている。記録類の管理にも注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼間はほとんどホールで過ごすことが多いが、何をしたいかを聞き、希望をくみ取るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園の野菜や地域の人からいただき物を料理に取り入れ、その時々を材料を献立にしている。調理は職員によって行なわれ、利用者の数人が後片づけに参加されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午後からで、毎日の入浴が行なわれている。脱衣場は洗濯場との兼用であり、洗濯機2台が置かれてもまだ広いスペースがあり、寒い時期にはストーブによる暖房がとられている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の手入れや、洗濯物たたみ等役割が持てるような場面づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物のために商店に行くにも車が必要なため、日常的な買い物支援は行われていない。天気の良い日はホーム近辺の散歩に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずセンサーの反応で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防訓練は実施されている。まだ夜間や地震を想定した避難訓練はなく、地域の協力体制も構築されていない。緊急時の車両到着時間も要することから、失火対策として、喫煙者1名の喫煙場所や就寝前のライター預かりなどに留意している。	○	ホームの周囲は急斜面のため、緊急脱出時の転落事故防止や玄関以外の非常出口となる個所を認識できるよう、月1回以上の避難訓練が望ましい。更に、地域の協力体制づくりを推進していただきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取記録がされている。事前の献立はなく、ある材料を使いながら食べやすく、減塩と高齢者の好みや、懐しさを取り入れた内容の調理が工夫されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールとウッドデッキのあるバルコニーが続き、広いスペースでゆったりと過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのロッカー以外は、利用者が好みで準備された物が使われている。		

※  は、重点項目。